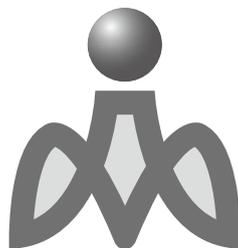


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成29年10月～12月実績〕
〔平成30年1月～3月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 164企業 (3) 回答企業数 164企業

2. 調査対象期間

第3四半期 平成29年10月～12月期 「調査時点：平成29年11月15日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ 業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	0	3	2	7
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	24	50	53	164

5. そ の 他

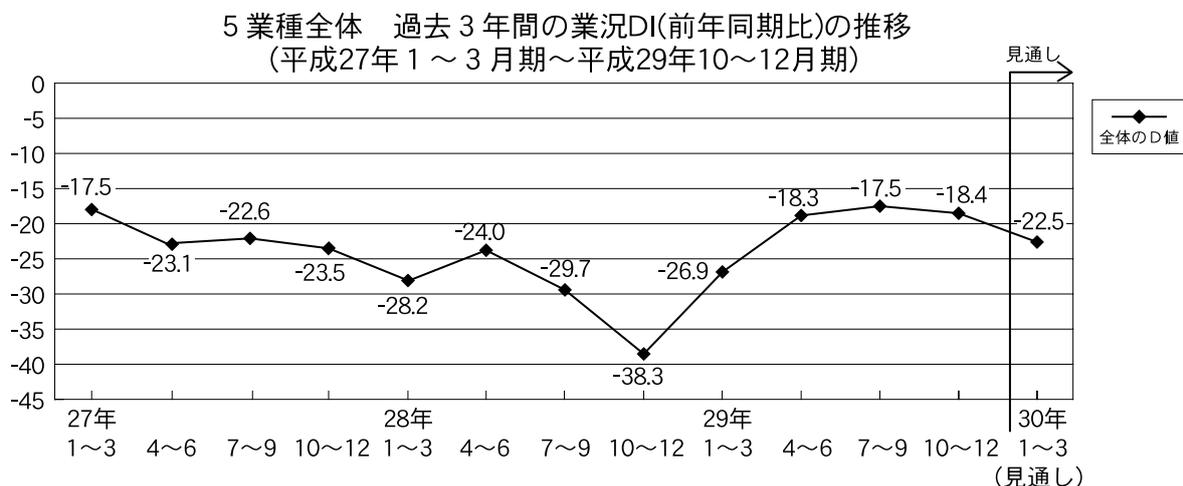
①本報告書のDIとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ285サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

今期の業況判断D Iは、▲18.4と前期比で0.9ポイント悪化している。
 来期については、▲22.5と更に悪化する見通しである。

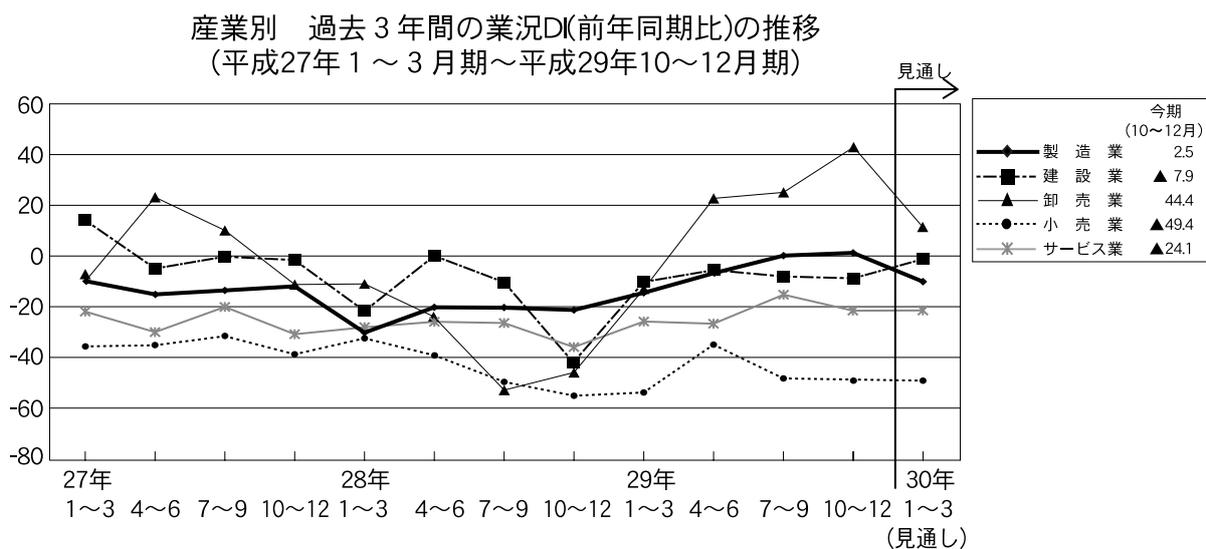


次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

製造業が2.5と前期比で2.5ポイント、卸売業が44.4と前期比で19.4ポイント改善している。

一方、建設業が▲7.9と前期比で0.2ポイント、小売業が▲49.4と前期比で1.5ポイント、サービス業が▲24.1と7.6ポイント悪化している。

来期は、製造業、卸売業、サービス業が悪化する一方、建設業、小売業が改善見通しである。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象164企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた285サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

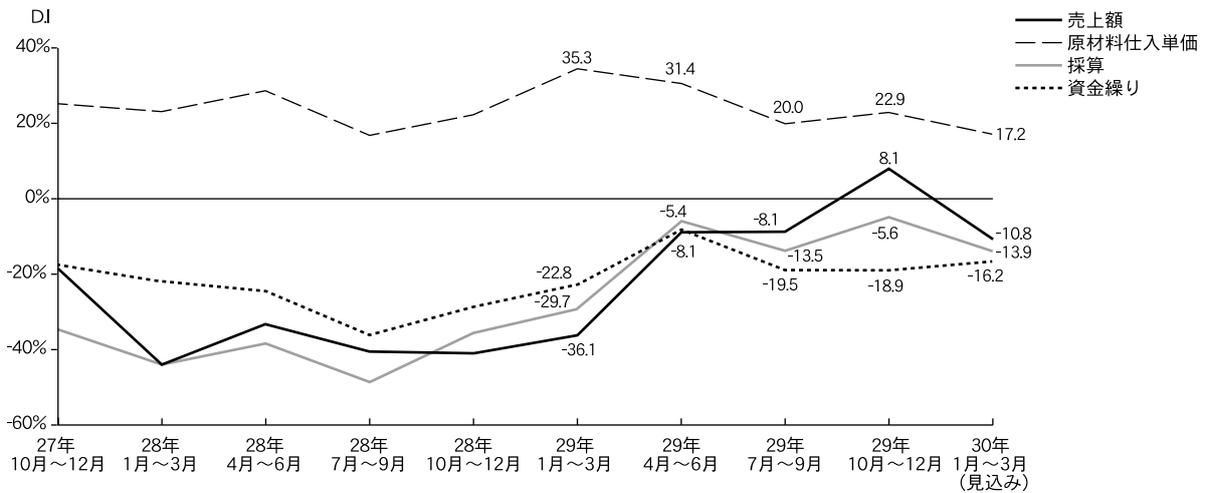
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は8.1と前期比で16.2ポイント改善している。一方、来期は▲10.8と悪化する見通しである。原料仕入単価D Iは、今期は22.9と前期比で2.9ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は17.2と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲5.6と前期比で7.9ポイント改善している。一方、来期は▲13.9と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲18.9と前期比で0.6ポイント改善している。来期は▲16.2と更に改善する見通しである。

今期は、原料仕入単価D Iを除いて改善している。一方、来期は、売上額D I、採算D Iが悪化する見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－

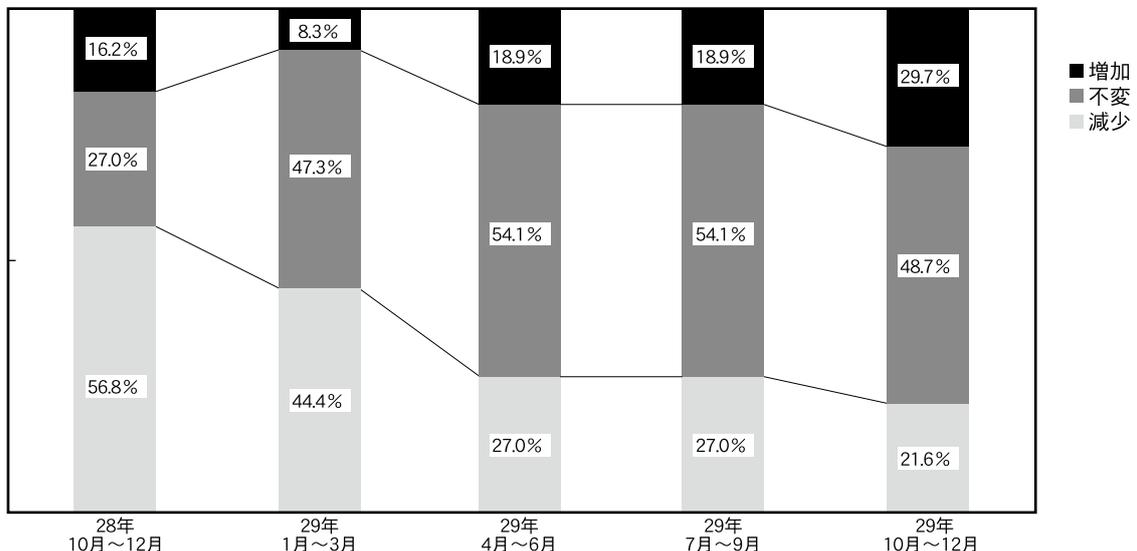


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、29.7%（11社）と増加（前期比+ 4社）。「不変」は48.7%（18社）と減少（前期比▲ 2社）、「減少」は21.6%（8社）と減少している（前期比▲ 2社）。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



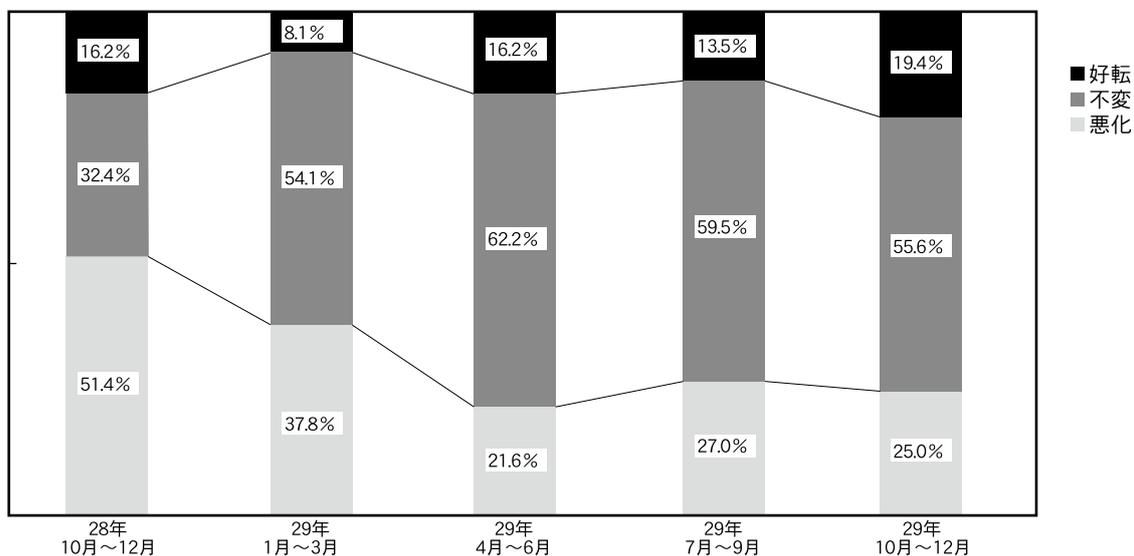
② 採算（採算D I の内容（回答企業数36社（前回 37社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、19.4%（7社）と増加している（前期比+2社）。

「不変」は55.6%（20社）と減少（前期比▲2社）、「悪化」は25.0%（9社）と減少している（前期比▲1社）。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

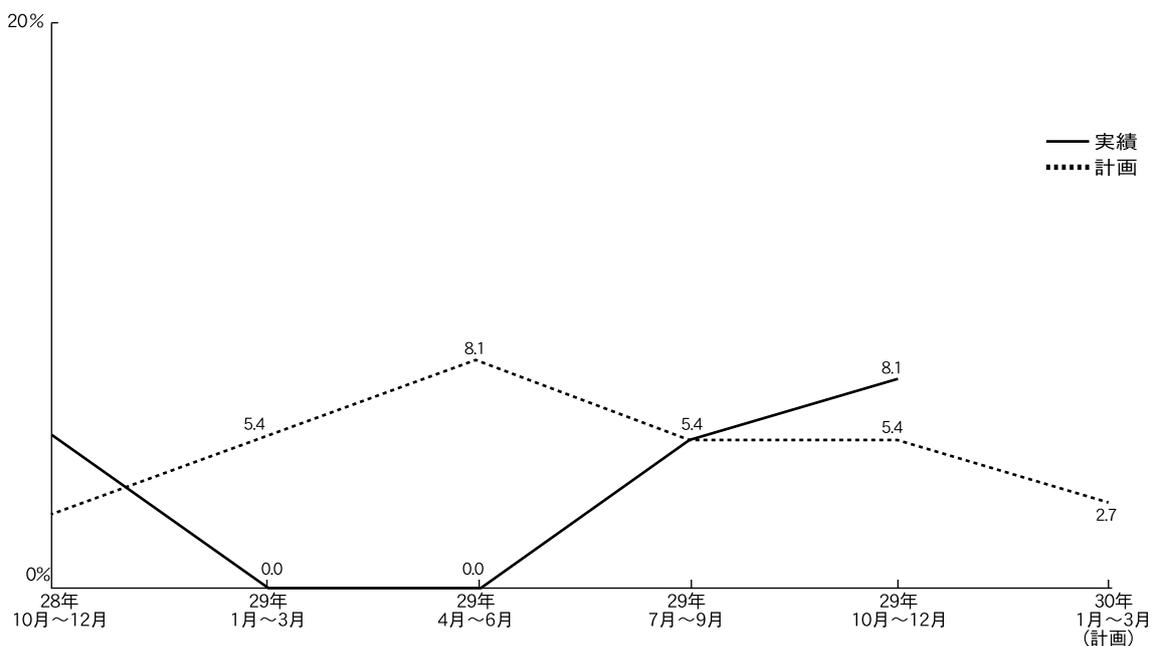


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.1%（3社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「生産設備」が1件になる。

来期の計画については、2.7%（1社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」、が1件になる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数34社）

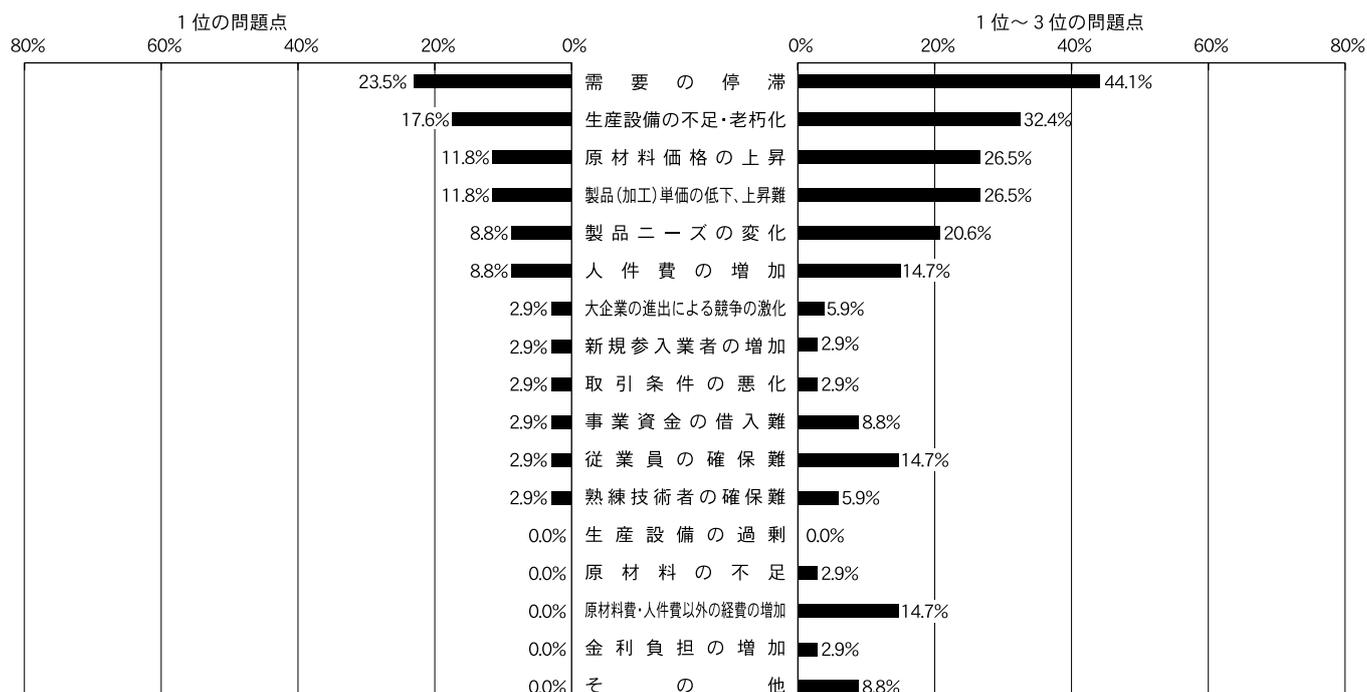
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の23.5%（8社）であり、2番目は、「生産設備の不足・老朽化」の17.6%（6社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の44.1%（15社）であり、2番目は、「生産設備の不足・老朽化」の32.4%（11社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	12	32.4
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	5	13.5
合計	37	100.0

従業員規模別

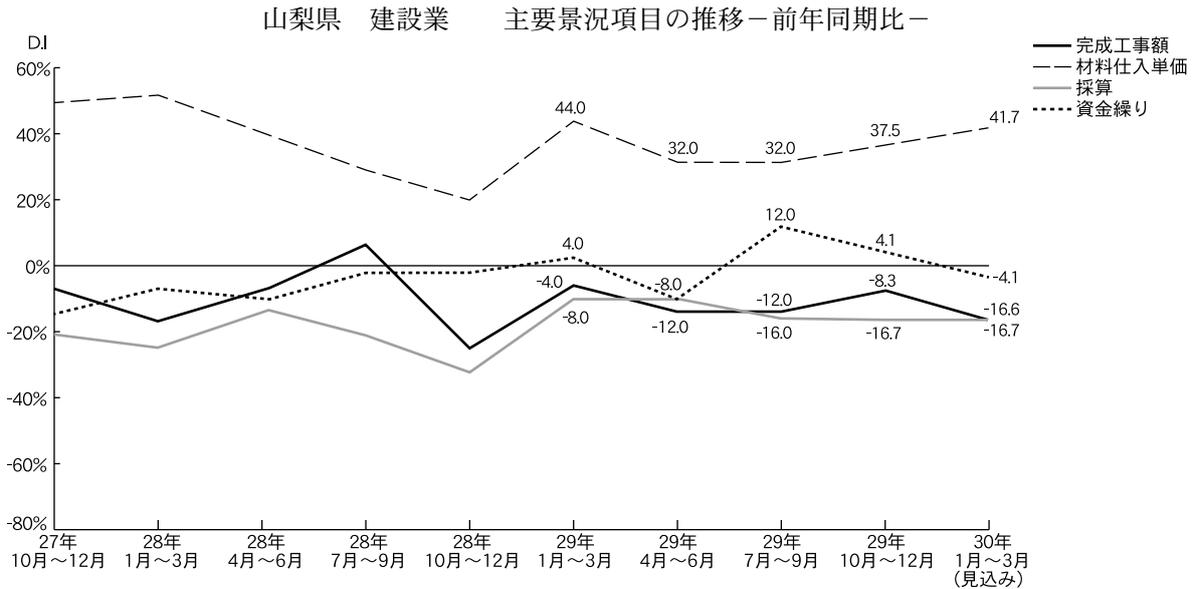
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	24	64.9	20	54.1
3人～5人以下	6	16.2	5	13.5
6人～10人以下	4	10.8	8	21.6
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期は▲8.3と前期比3.7ポイント改善している。一方、来期は▲16.7と悪化する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は37.5と前期比5.5ポイント上昇（悪化）している。来期は41.7と更に上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲16.7と前期比で▲0.7ポイント悪化している。一方、来期は▲16.6とやや改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は4.1と前期比7.9ポイント悪化している。来期は▲4.1と更に悪化する見通しである。

今期は、完成工事額D Iを除いて悪化している。来期は、採算D Iを除いて悪化する見通しである。

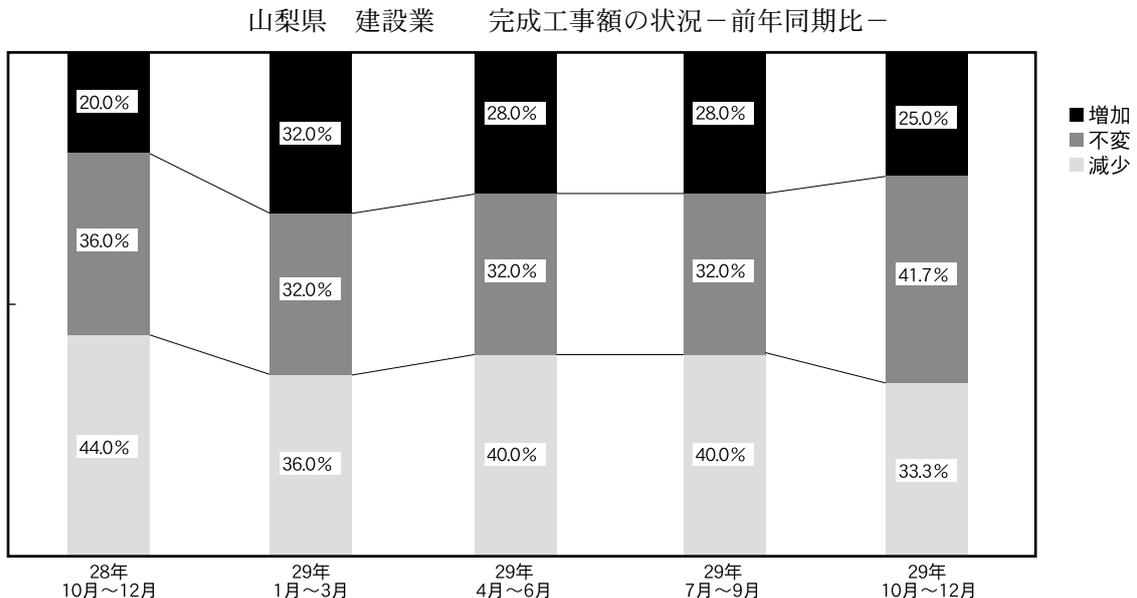


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数24社（前回25社））

「増加」と答えた企業の割合は、25%（6社）と減少（前期比▲1社）。

「不変」は41.7%（10社）と増加（前期比+2社）、「減少」は33.3%（8社）と減少となっている（前期比▲2社）。



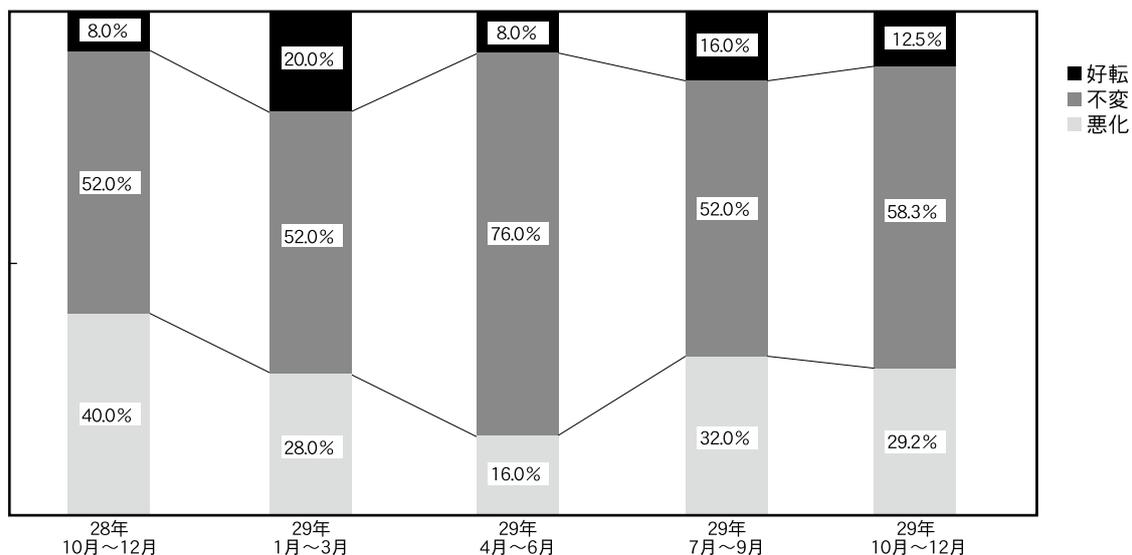
② 採算（採算D I の内容（回答企業数24社（前回25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.5%（3社）と減少している（前期比▲1社）。

「不変」は58.3%（14社）と増加（前期比+1社）、「悪化」は29.2%（7社）と減少している（前期比▲1社）。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

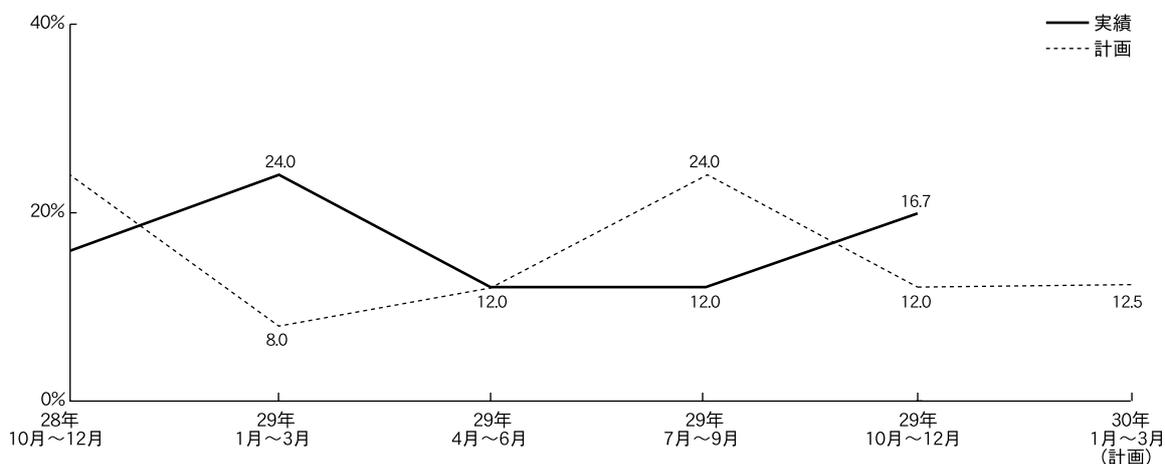


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数24社（前回25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は16.7%（4社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が3件、「土地」、「建物」、「建設機械」、「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、12.5%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両運搬具」が3件、「OA機器」が2件になる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数24社）

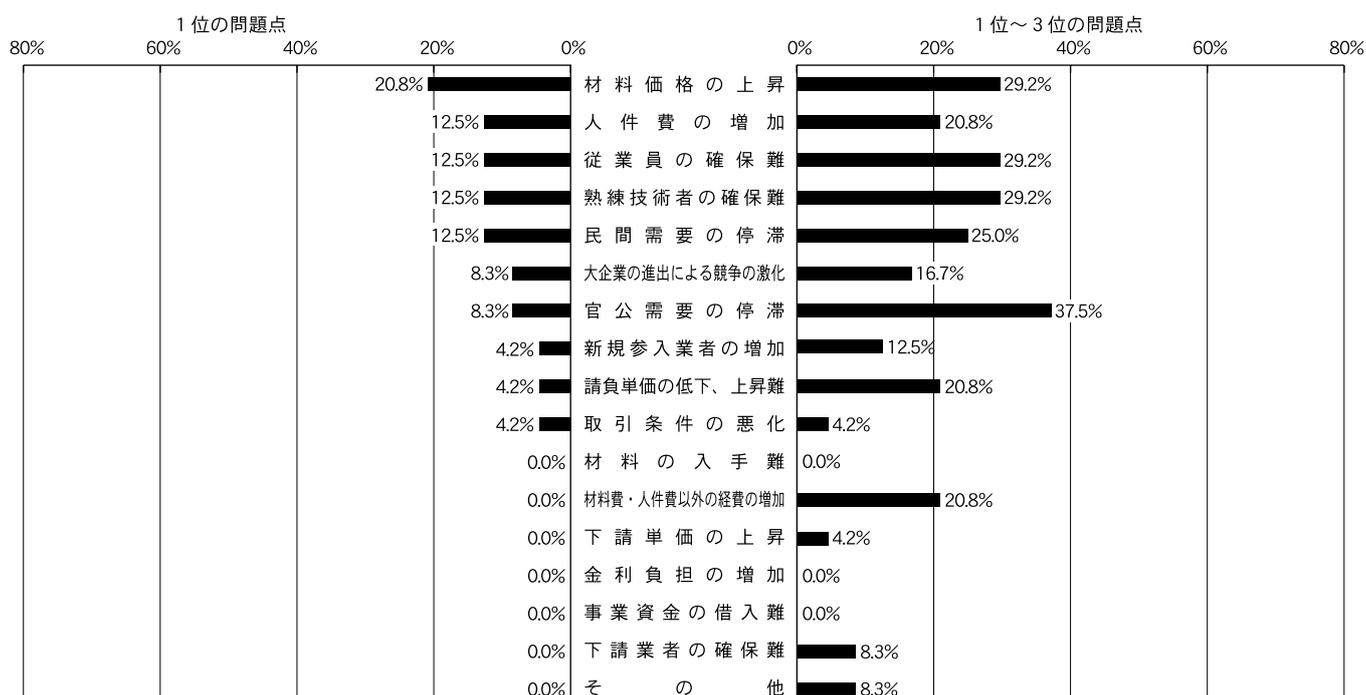
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料価格の上昇」の20.8%（5社）であり、2番目に多かったのは、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」、「民間需要の停滞」の12.5%（3社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものを見る。

1番目に多かったのは、「官公需要の停滞」の37.5%（9社）であり、2番目に多かったのは、「材料価格の上昇」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」の29.2%（7社）である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	17	70.8
職別工事業	5	20.8
設備工事業	2	8.3
合計	24	100.0

従業員規模別

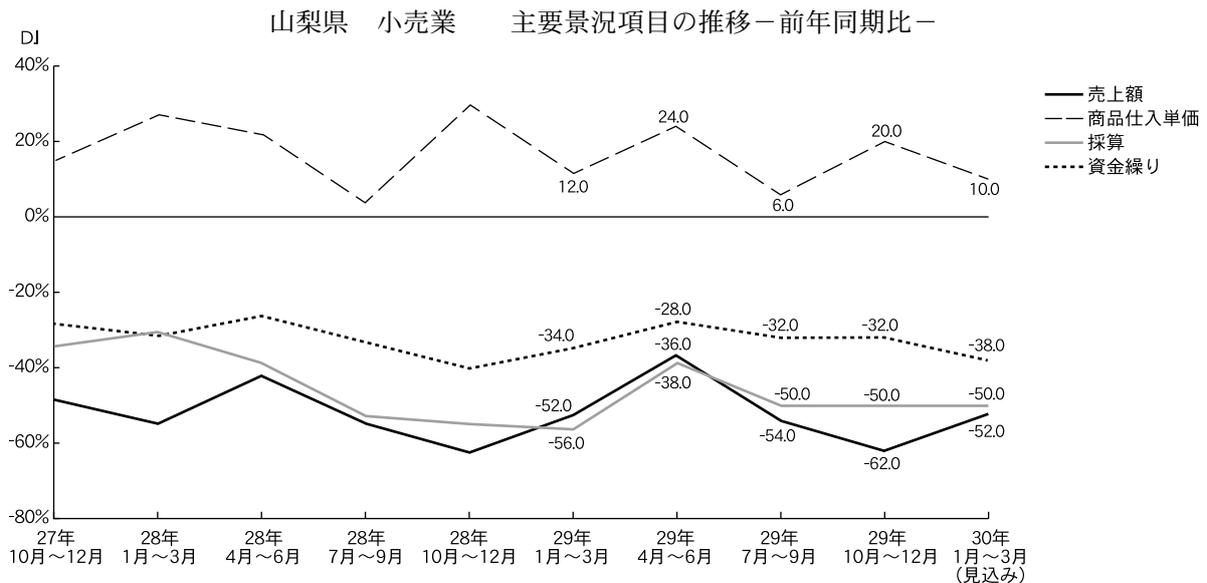
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い 企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	8	33.3	7	29.2
3人～5人以下	6	25.0	7	29.2
6人～10人以下	5	20.8	5	20.8
11人～20人以下	5	20.8	5	20.8
合計	24	100.0	24	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額DIは、今期は▲62.0と前期比で8.0ポイント悪化している。一方、来期は▲52.0と改善する見通しである。商品仕入単価DIは、今期は20.0と前期比で14.0ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は10.0と低下（改善）する見通しである。採算DIは、今期は▲50.0と前期比で横ばいとなっている。来期についても横ばい見通しである。資金繰りDIは、今期は▲32.0と前期比で横ばいとなっている。来期は▲38.0と悪化する見通しである。

今期は、売上額DI、商品仕入単価DIが悪化している。一方、来期は、資金繰りDIを除いて改善、あるいは、横ばい見通しである。

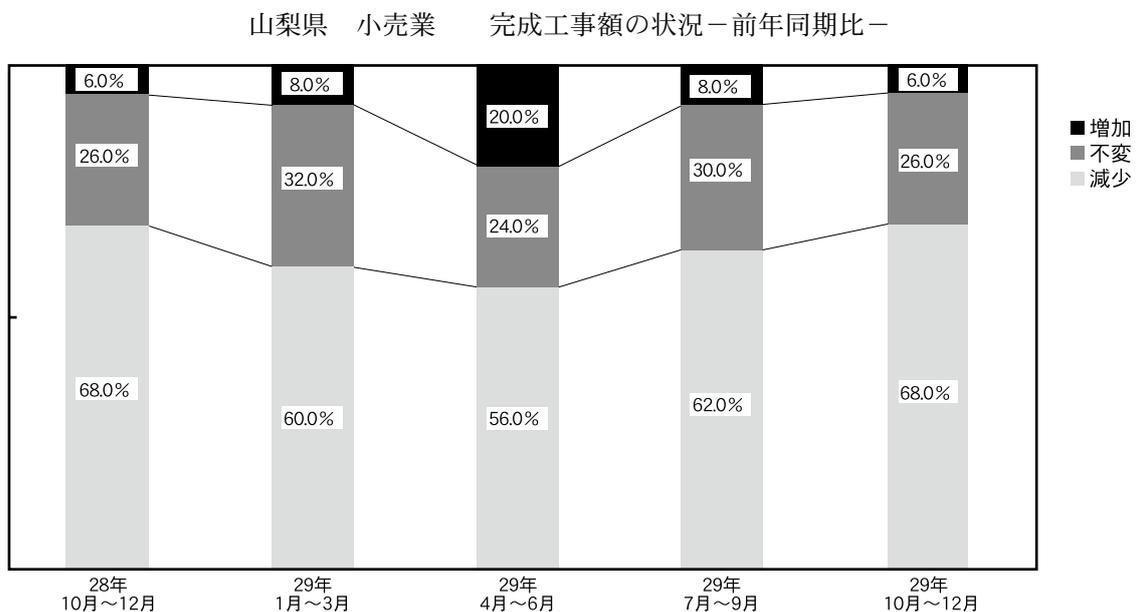


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額DIの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、6.0%（3社）と減少している（前期比▲1社）。

「不変」は26.0%（13社）と減少（前期比▲2社）、「減少」は68.0%（34社）と増加している（前期比+3社）。



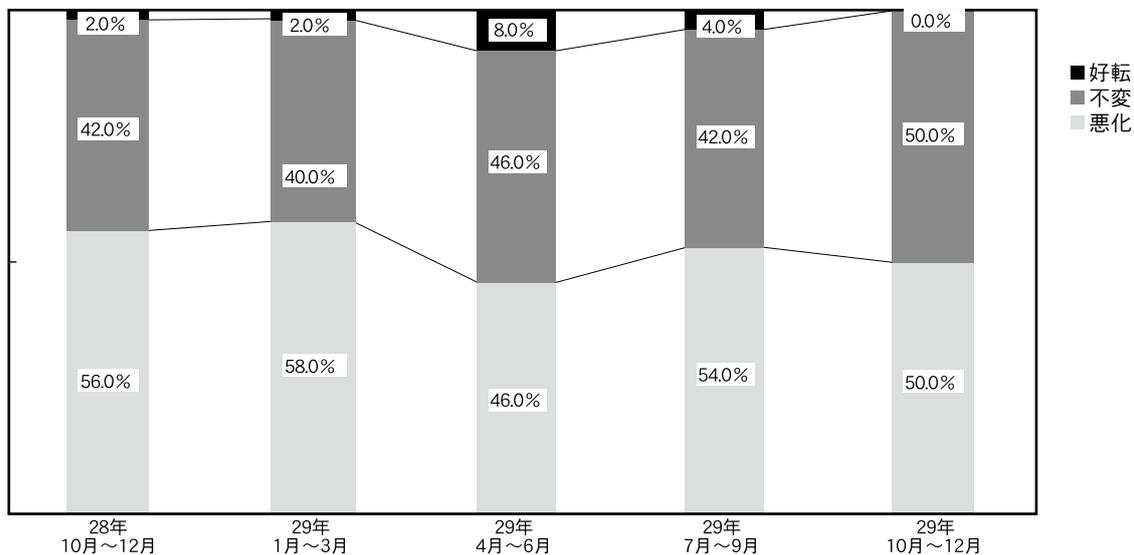
② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、0.0%（0社）と減少している（前期比▲2社）。

「不変」は50.0%（25社）と増加し（前期比+4社）、「悪化」は、50.0%（25社）と減少している（前期比▲2社）。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

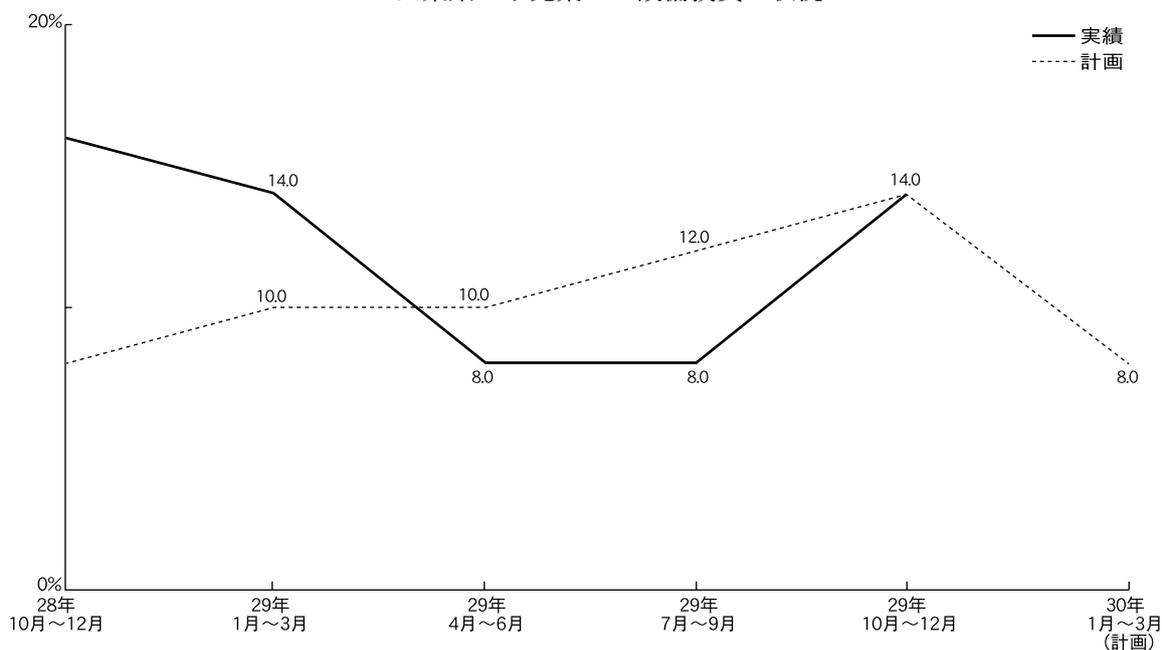


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は14.0%（7社）であった。その設備投資の内容は、「その他」が3件、「車両・運搬具」、「OA機器」が2件ずつ、「販売設備」が1件であった。

来期の計画については、8.0%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両運搬具」が2件、「店舗」、「販売設備」、「その他」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数45社）

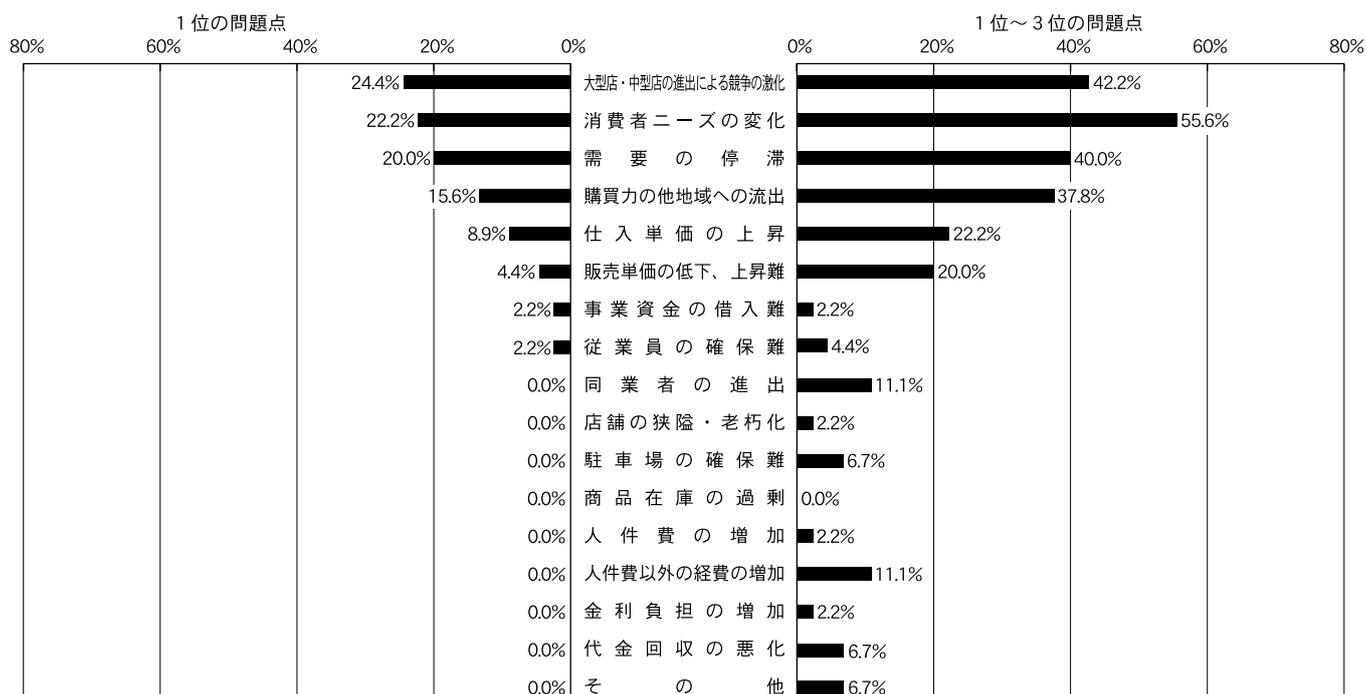
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の24.4%（11社）であり、2番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の22.2%（10社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の55.6%（25社）であり、2番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の42.2%（19社）である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食物品小売業	16	32.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	16	32.0
合計	50	100.0

従業員規模別

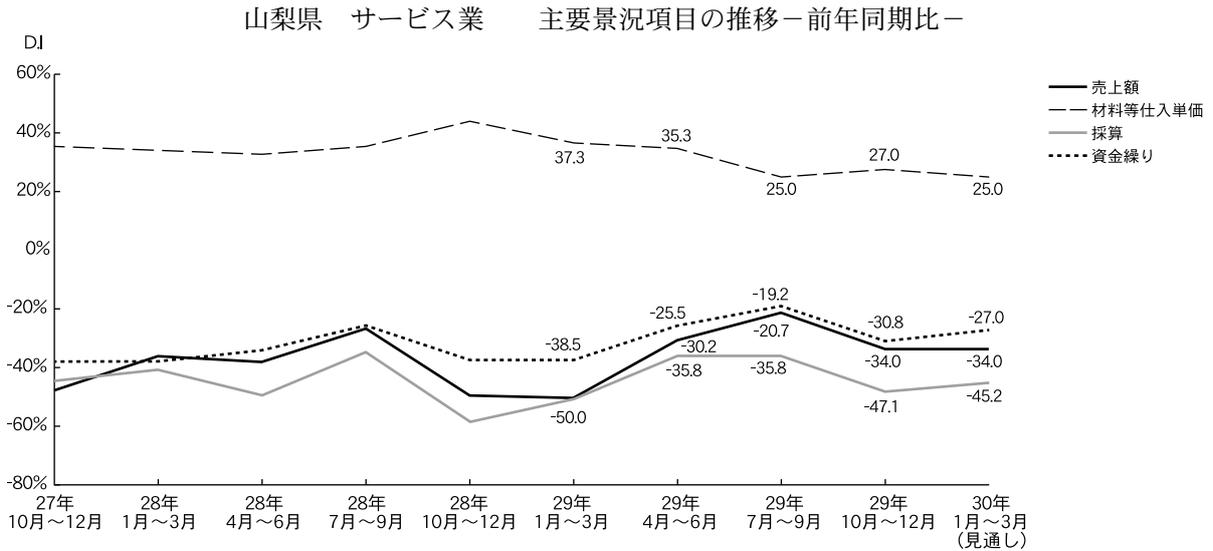
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	45	90.0	39	78.0
3人～5人以下	5	10.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲34.0と前期比で13.3ポイント悪化している。来期は▲34.0と横ばい見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は27.0と前期比で2.0ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は25.0と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲47.1と前期比で11.3ポイント悪化している。一方、来期は▲45.2と改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲30.8と前期比で11.6ポイント悪化している。一方、来期は▲27.0と改善する見通しである。

今期は、全てのD Iが悪化している。一方、来期は、全てのD Iが改善、あるいは、横ばい見通しである。

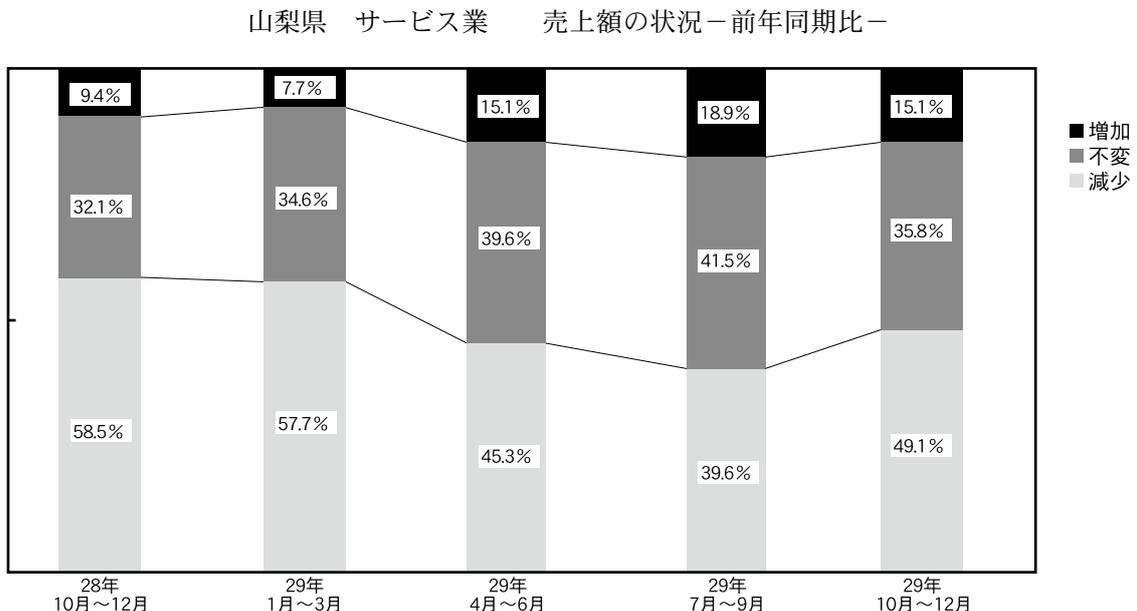


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、15.1%（8社）と減少している（前期比▲2社）。

「不変」は35.8%（19社）と減少（前期比▲3社）、「減少」は49.1%（26社）と増加している（前期比+5社）。

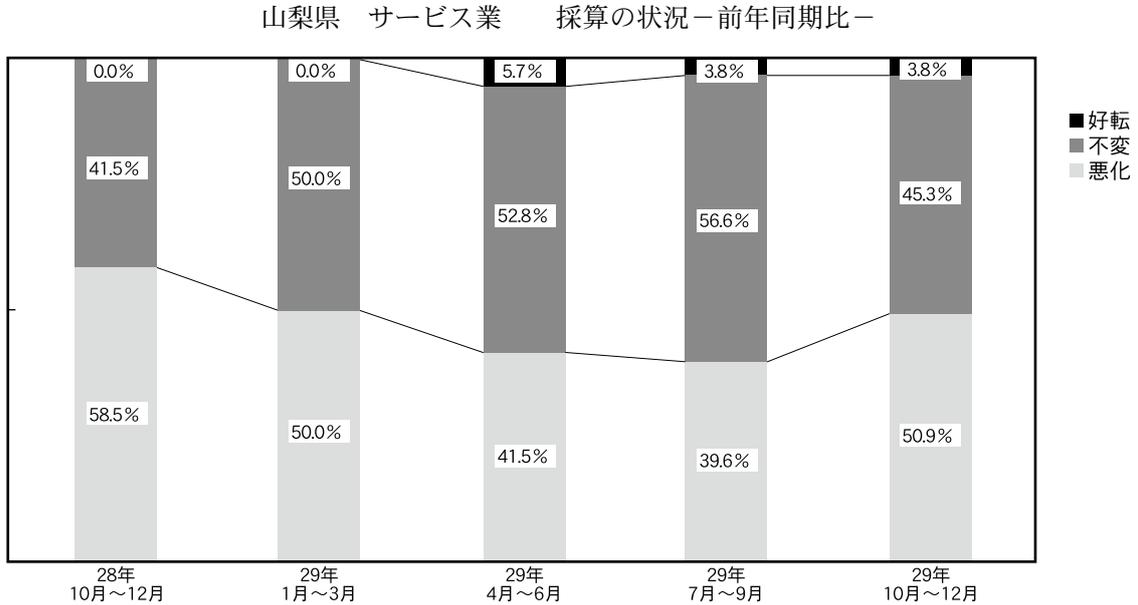


② 採算（採算D Iの内容（回答企業数53社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、3.8%（2社）と横ばいとなっている（前期比±0社）。

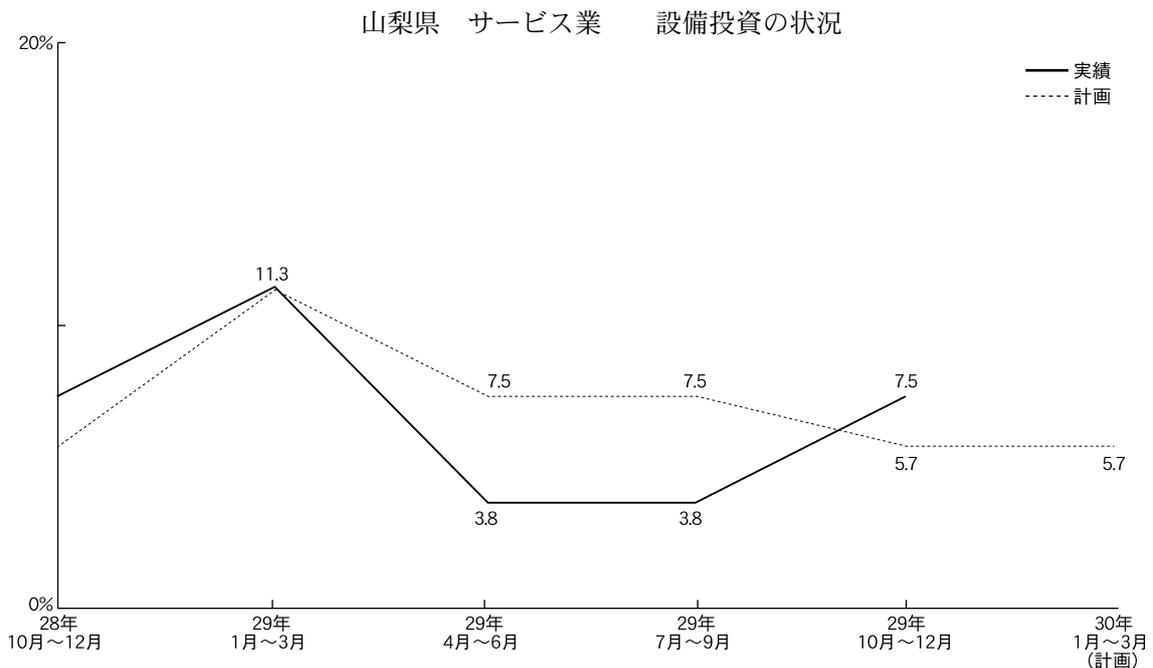
「不変」は45.3%（24社）と減少し（前期比▲6社）、「悪化」は50.9%（27社）と増加している（前期比+6社）。



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は7.5%（4社）であった。その設備投資の内容は、「その他」が2件、「建物」、「QA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、5.7%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が3件、「付帯施設」が2件になる。



④ 経営上の問題点（回答企業数49社）

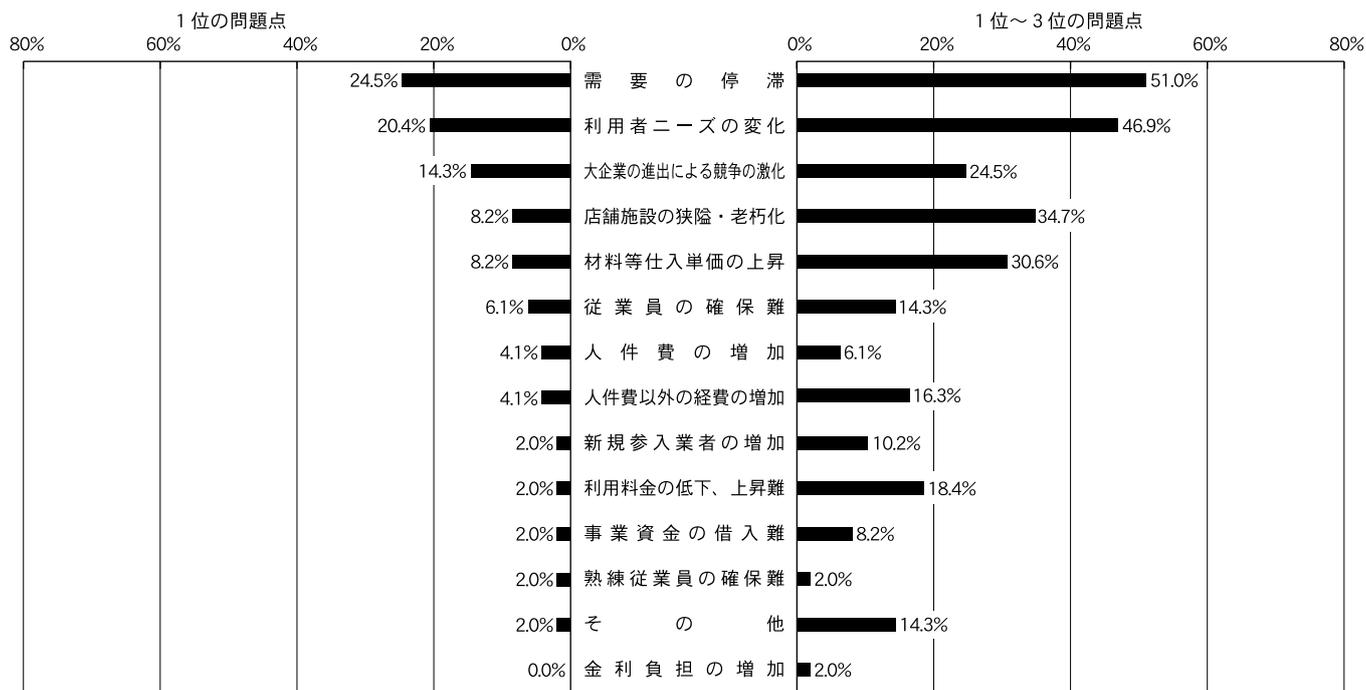
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の24.5%（12社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の20.4%（10社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の51.0%（25社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の46.9%（23社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.7
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	46	86.8	42	79.2
3人～5人以下	7	13.2	11	20.8
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0